

E.S. アンデルセン 『進化的経済学 - シュンペーター を超えて』 正誤表

2003.11.10 版

監修の不十分さから、以下のような誤記が残ったことを読者の皆様にお詫びします。
以下の正誤表は、文体の改善を含まないミニマムな訂正です。八木紀一郎

場所：ページ (p) と行 (l)	誤	正
p.12 , l.11	(p89)	(p.89)
p.22 , 最下行	塩野谷祐一	塩野谷祐一訳
p.30 , l.12,21	$\Sigma_j D_{ij}(\bar{P})$	$\Sigma_i D_{ij}(\bar{P})$
p.31 , l.3,10	$\Sigma_j D_{ij}(\bar{P})$	$ \Sigma_i D_{ij}(\bar{P}) $
p.31 , l.11	$P_j - \lambda \Sigma_j D_{ij}(\bar{P})$	$P_j \pm \lambda \Sigma_i D_{ij}(\bar{P})$
p.33 , l.17	シュンペーターを想像する だろう．その彼	シュンペーターが想像でき るだろう．彼
p.35 , l.4	予見力をもった	予見力をもたない
p.35 , l.8	と彼は	とわれわれは
p.36 , l.1-2	ランダムがメカニズムとし て果たす役割をアルチャン が強調することは	ランダムなメカニズムの役 割は，アルチャンの強調にも かかわらず
p.38 , l.14	一連の暗黙が	一連の暗黙の仮定が
p.52 , 注 13 , l.4	ある場合 (Tool,1988)	ある場合 (Tool,1988)
p.53 , 注 22 , l.7	[Tool,1988] を参照．	[Tool,1988] を参照) ．
p.53 , 注 22 , l.19	「非シュンペテリアン」	「ネオ・シュンペーテリアン」
p.55 , l.19	と論じるシュンペーター	とシュンペーター
p.57 , l.29	意思決定者の近くを	意思決定者の知覚を
p.57 , l.30	直観な意味通り	直観的な意味通り
p.61 , l.24	p.7,f.	p.7f.
p.64 , l.11	変化相対的な頻度における と	変化 (相対的な頻度におけ る) と

場所：ページ(p) と行(l)	誤	正
p.67, l.23	関連性した情報は	関連した情報が
p.68, l.17	疑問をそのままが	疑問をそのまま
p.68, l.24,26	同義反復な	同義反復的な
p.72. l.18 hline p.80, l.12	と同時に 観点を	が、作用素 β は 観点は
p.84, l.8	同時に変化する	同時に変化させる
p.86 l.10f.	破棄することとして、	破棄することによって、
p.87, l.11-12	(後に…で引用)	(…から重引)
p.87, l.25	適用すると	通用すると
p.88, l.10	個々まで発達した	ここまで発達した
p.88, l.22	抽象化を命じた下で	抽象化の原理の下に
p.89, 最下行	教程過程	教程
p.92, l.24	新製品を「使用に…」	新製品の「使用に…」
p.111, 脚注	岩波生物学事典第3版	(岩波『生物学辞典』第3版 による)
p.134, l.2f.	このケースは方程式は 3.5 式と、ルーチンをとる a_{12} , a_{21} , K_1 , K_2 から構成され ている。	このケースは 3.5 式と、 a_{12} , a_{21} , K_1 , K_2 などの数値か ら構成され、それらは
p.185, l.3	ゲリベイス	ゲリベイズ
p.190, 図 4.6	図の印刷ミス	下記図 1 を参照
p.213, l.14	ルールベースシステム(に	ルールベースシステムに
p.217, l.1	最適大域的な	大域的な
p.237, 表 5.4	[印刷ミス (b)(c) の右部分が 切れている]	下記表 1 を参照
p.256, l.12	必要があることことを	必要があることを
p.268, 脚注(8 ヶ所)	岩波生物学事典第3版	(岩波『生物学辞典』第3版 による)
p.277, l.12f.	選択論(…)の説明	選択論の説明(…)
p.286, l.1	所得性	諸特性
p.286, l.9	それによって	[削除]
p.287, l.28	ジョージ R. プライス	ジョージ・R・プライス
p.289, l.15	考えいた	考えていた
p.295, l.11	(Nelson and Winter,	(Nelson and Winter,
p.308, l.7	Intra-to-inter-pupolation	Intra-to-inter-population

商人 A の戦略 ($i+1$ 番目の取引時の行動)	商人 B の i 番目の取引時の行動	
	P	D
常時裏切: ALL-D (\overline{DD})	D	D
常時協力: ALL-P (\overline{PP})	P	P
しっぺ返し: TIT-FOR-TAT (\overline{PD})	P	D
逆しっぺ返し: ANTI-TIT-FOR-TAT (\overline{DP})	D	P

(a) 2 ビット戦略

商人 A の戦略 ($i+1$ 番目の取引時の行動)	商人 B の $i, i-1$ 番目の取引時の行動			
	PP	PD	DP	DD
我慢 1 回: TIT-FOR-TWO-TATS (\overline{PPPD})	P	P	P	D
倍返し: TWO-TITS-FOR-ONE-TAT (\overline{PDDD})	P	D	D	D
名前なし (\overline{PDPD})	P	D	P	D
(あと 13 戦略)				

(b) 4 ビット戦略

商人 A の戦略 ($i+1$ 番目の取引時の行動)	商人 B の $i, i-1, i-2$ 番目の取引時の行動							
	PPP	PPD	PDP	PDD	DPP	DPD	DDP	DDD
$\overline{PPPPPPDD}$	P	P	P	P	P	P	D	D
$\overline{PPDDPDDD}$	P	P	D	D	P	D	D	D
(あと 254 戦略)								

(c) 8 ビット戦略

表 1:

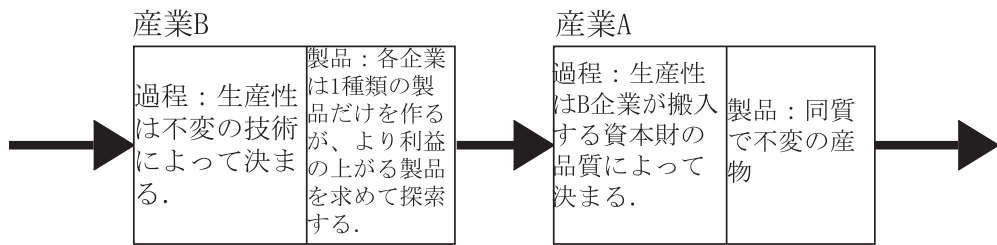


図 1: